

ヨーロッパ共同体のようになわけにはいかない ソ連はどうなる? 独立国家「共同体」の不安なゆく末

文・橋爪大三郎

一九一七年、レーニンがロシア革命に成功、クレムリンにへんぼんと赤旗が翻った。

驚いた欧米列強は口実をもちけて介入、日本もシベリアに出兵した。コミック「はいからさんが通る」の伊集院少尉が、シベリアの雪原で負傷したのもこの時のこと。でも赤軍は、外国の干渉をはねのけ、一九二二年にソビエト社会主義共和国連邦(ソ連)を成立させた。そのソ連が去年の12月、ガラガラと音を立てて崩壊した。ゴルバチョフ大統領もとうとう辞任、代わって「独立国家共同体(CIS)」が発足した。

●ゴルバチョフはソ連を教えたかった
ゴルバチョフは「新連邦条約」の調印に、最後までこだわっていた。

エリツィン大統領にしてみれば、ゴルビーをトップに戴く新連邦などまづびら。そこでロシア、ウクライナ、ベラルーシ(白ロシア)のスラブ系三共和国はソ連を飛び出し、「独立国家共同体」を発足させると発表し、イスラム系のカザフ共和国などもこれに加わったので、とうとうソ連は、地図の上から消えることになった。

●ソ連の民族対立は、なぜ起きた?
各共和国がエリツィンのゴルバチョフ外しに協力したのは、ソ連への恨みつらみが深かったから。ソ連は、民族対立を恐れるあまり、小さな民族をいじめ抜いた。そのツケが、とうとう回ってきたのだ。

●ソ連の民族対立は、なぜ起きた?
西ヨーロッパの国々、たとえばフランスとドイツは昔は大猿の仲だった。でもいまは、ヨーロッパ、共通の家の住人としてうまくやっている。そういう仲直りがすん

は、東ローマ皇帝から「世界総主教」の称号をもち、対抗、やがて二つの教会は、主教会議も別々に開くようになり、とうとう一〇五四年にお互いを敵視して喧嘩

なりいつたのは、西ヨーロッパ全体に、民族の違いを超えた共通の価値観(ローマ教会の流れをくむキリスト教文化)が確立しているからだ。

●ロシアは、ローマ帝国のなれの果て
ところでロシア帝国には、ツァーリ(皇帝)といものがいました。あれはいつた何だったのか? 種を明かせば、ツァーリは「カエサル」という意味。実はローマ皇帝のなれの果てなので。

●宗教の対立が、民族紛争を生む
その教会だが、初めのころはけっこういい加減で、イエス・キリストが、神なのか人間なのかさへはつきりしない有様だった。聖書にもきちんと書いてないため、いろんな説が乱立、これは困ると思つた皇帝は、主教各地の教会のリーダーを集めて会議を開いて、どの説が正しいかを決めさせた。皇帝の旨を遂げる主教会議(公会議とも言う)が、最高決定機関なのである。

●いま正統とされている三位一体説(キリストは神であり、人間でもあるという説)も、最初はさつした説の一つにすぎなかった。でも、公会議で正しいと決まると、

●キリシヤ正教の、三つの特徴
こうして独自の道を歩むことになったキリシヤ正教には、ローマ教会と違った特徴がいくつかある。特徴その1、皇帝が教会の上に立ち、いちいち教会を指図すること(皇帝教皇主義)。西ヨーロッパにはそういう皇帝がいなかった。教皇のほうがかみみの主権より偉いとされた。そのため政教分離(国王が教会に口を出さないこと)が進み、近代化の基礎ができた。

●キリシヤ正教の、三つの特徴
特徴その2、民族ごとに教会を作る。ビザンチン教会は、ブルガリア人を改宗させるとき、ブルガリア語を典礼(教会の儀式)に使っていいと認められた。当然ロシア人もロシア語を使え、典礼のやり方がま

●キリシヤ正教の、三つの特徴
特徴その3、イコン(聖像)を公認したこと。キリスト教は偶像崇拝禁止のほすが、スラブ民族は、その辺にあんまりとんちやしくなかつたよつてである。

●独立国家「共同体」の不安なゆく末
ソ連が解体したからといって、東ヨーロッパの近代化が一挙に進むなどと、楽観してはならない。東ヨーロッパでは、教会の力が弱いため、政治力がその代わりに入るとしてきてきた。そこでロシア帝国やソ連のように強力な国家が現れたのだが、えてして強者は強者の文化を押しつけられがちである。ソ連は「民族の集場」だったのである。その慣りが、各共和国を独立に駆り立て、民族紛争を爆発させた。同じ慣りが、今度はロシアに向けられる可能性が大きい。



橋爪大三郎(はしづめ だいさぶろう) 社会学者。「冒険としての社会科学」(毎日新聞社)などの著者。……92年の1月2日から、ロシアは自由格闘に踏み切りました。荒原だが、ぜひとも必要なこと、なんとか成功してほしい。

キリスト教とロシア正教の歴史

年	主なできごと
313	ローマ皇帝、キリスト教を公認する
374	アルメニア教会、独立する
392	キリスト教、ローマの国教となる
395	ローマ帝国、東西に分裂する
476	西ローマ帝国滅亡
926	ブルガリア正教会、独立する
998	キエフ大公ウラジミール、キリスト教に改宗
1054	ローマ教会とビザンチン教会、絶縁する
1448	ロシア正教会、独立する
1453	東ローマ帝国滅亡
1498	モスクワ大公イワン三世、皇帝となる
1633	ギリシヤ正教会、独立する
1943	グルジア正教会、独立する
1985	ローマ教会とビザンチン教会、9世紀ぶりに和解

それ以外の説(例えば単性説(キリストを人間とをえないう説)などを、残らず教会から追い出した。

●ローマ教会と、ビザンチン教会
中央アジアのアルメニア人は、そうなる前に単性説を信じてアルメニア教会を作っていた。この教会はいまも続いている。アルメニア共和国が、イスラム教の隣国アゼルバイジャンはもちろんだ、ロシア正教の流れをくむグルジア正教のグルジア共和国とも仲が悪いのは、こうした歴史的背景が背景になっている。

●キリシヤ正教には、教皇がいらない代わりに、主教会議の決定が絶対である。ただし千年以上も前の決定なので、それに縛られるとかなり保守的になってしまふ。

●キリシヤ正教には、教皇がいらない代わりに、主教会議の決定が絶対である。ただし千年以上も前の決定なので、それに縛られるとかなり保守的になってしまふ。

●キリシヤ正教には、教皇がいらない代わりに、主教会議の決定が絶対である。ただし千年以上も前の決定なので、それに縛られるとかなり保守的になってしまふ。

●キリシヤ正教には、教皇がいらない代わりに、主教会議の決定が絶対である。ただし千年以上も前の決定なので、それに縛られるとかなり保守的になってしまふ。

●キリシヤ正教には、教皇がいらない代わりに、主教会議の決定が絶対である。ただし千年以上も前の決定なので、それに縛られるとかなり保守的になってしまふ。

総台職も先が見えない、結婚もまだみたい 二十代最後の転職は、思案のしづみ

文・橋爪大三郎

私の知り合いのSさんが、ゼツタイ転職するぞと決意したのは、26歳の時のことだった。
特に不満があったわけでもない。会社にも慣れ、少しづつ責任ある仕事を任されてきた。でも、このままできつと後悔する。そう心に鞭打って、勤めの合間にインターネットを勉強し始める。運よく数年、インターネット・コーディネーターの試験にパス。すぐ退社して念願の独立を果たし、いろいろ苦労のあけく、六年後のいまは目抜き通りにオフィスを構える一因一城の主だ。

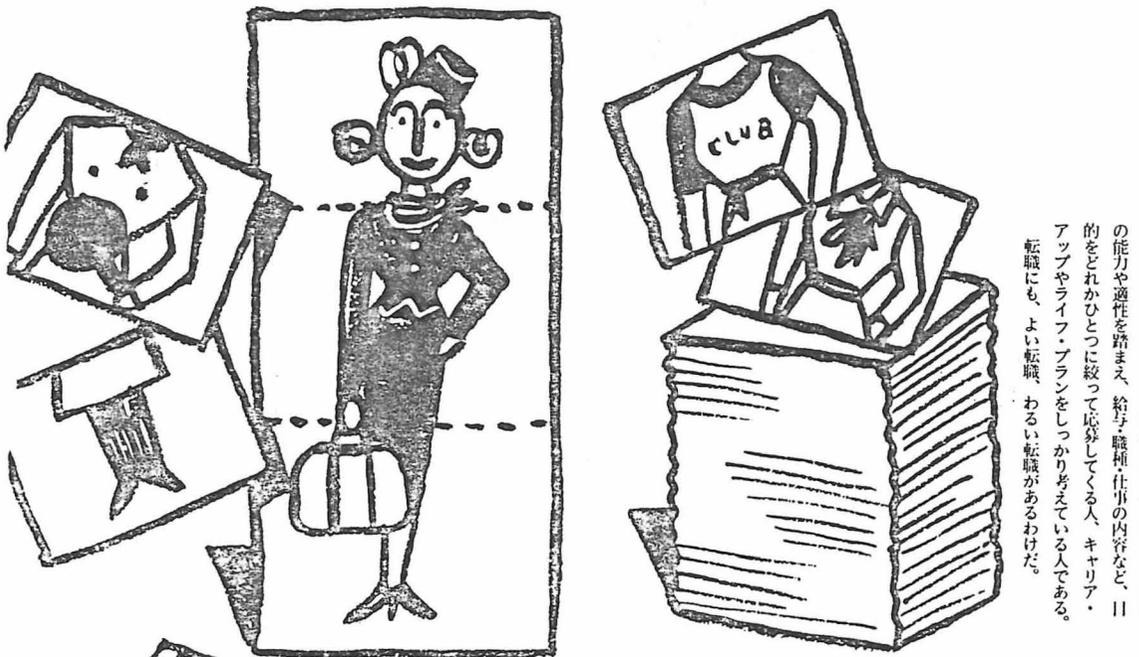
それでもこんなふうに行くとはいえない。じゃあ自分分は、このまま動いていらいのか、それとも転職すべきか。そのあたりを、ケース別に考えてみよう。
● 女性ばかりが、なぜ悩むか？

あるアンケート調査によると、働く若い女性の半数以上が、条件さえよければ転職したいと考えているという。また実際に転職・退職した女性は、去年一年間で約三百七十七万人。男性より三十五万人も多い。そういえば二十代後半にさしかかった私の母も、去年のうちにばたばたと二人とも転職した。まさに転職ラッシュだ。

最近でも男性の転職も目立って増えているものの、転職するかどうかで頭を悩ませるのは、やはり圧倒的に女性。それはなぜなのだろうか？
ひと言でいうと、男性は「転職すると不利になるケースがほとんど」だから。戦後の高度成長期に「年功序列制」が定着し、ひとつの企業にじっとしているほど給与が上がり出世するというパターンが出来上がった。一方女性はお茶汲み扱い。結婚退社も不文律になっていて、まるで戦力とみなされていない。

● 日本には「労働力市場」がない？
日本企業には、こういう男性中心主義の風土がまだまだ根深いので、女性がそのしわ寄せを被っている。欧米の企業には、年功序列なんかない。昇給・昇進しただけは、転職するのが当たり前。この点、男も女も同じ。

似たようなトラブルを起こしがちである。転職するあなたノ、面接のとき、前の職場の不満をぶちまけたりしないほうが無難です。
では、どういうタイプが歓迎されるかというと、自分の能力や適性を踏まえ、給与・職種・仕事の内容など、目的をどれかひとつに絞って応募してくる人、キャリア・アップやライフ・プランをしっかり考えている人である。転職にも、よい転職、わるい転職があるわけだ。



● 総合職一職は、女性の勝ちか？
ところで年功序列は、①新卒男子をいくらでも採用でき、②企業がいくらでも成長できる、ことを前提条件にしている。だが、こんな条件が長続きするはずもなく、慢性的な人手不足に陥った。仕方がないので、どの企業もだんだん女性の労働力に頼りはじめた。そんな変化を背景に、六年前「男女雇用機会均等法(コキンホ)」が施行された。

均等法は、職場から男女差別をなくすことをうたい文句にしている。そもそも考ええなかった企業は、つじつまを合わせようと思いきや、女性を総合職・一般職の二種類に分けてしまう。「コース別人事制度」を思いついた。女性も総合職で男性並みに働けば、男性と同じ待遇にしますよ、というわけだが、一般職に振り分けられた女性は、差別待遇が定着してしまっただけで済んでおもしろくない。おまけに男性は一般職にならないわけだから実体はやっぱり、職種の違いのかわりを借りの性差別なのである。女性だけが、結婚や家庭を犠牲にする総合職か、それとも、いつまでも下積み覚悟の一般職か、どっちなんだと踏み悩まされる。そんなコース別人事制があったらどうか？

● 総合職も先が見えない
総合職のお見見えといつしよに入社した均等法第一世代も、そろそろ七年目、転職を迫られている。それなりに割り切ればいとお安定して働ける一般職と違い、総合職のほうは、なにしろ先例がない。先輩もい

● ふたつの心算が大物
でも実際問題、この二つは絡まっている。いまの職場に希望がある間は、変な上司やお局さまがいても頑張り。もうだめだと思ったとたん、我慢ならなくなる。そうなるからあわてても遅い。転職する予定がないうちから、将来の自分に投資する意味で、何かを確実に身につけておこう。資格を取るのもいいし、フアイレンクや英語の勉強だっていい。面接のとき、これ！と見えるものを作っておくことだ。
● 海外留学は、決めてになるか
それとあとひとつ、なんといっても、貯金が大物。いろいろあつて会社を辞めたあつたあと、このまま再就職しても同じことの繰り返しだ。あと、とよんぼりしてしまおう。そんなとき、「そつた、海外留学」と叫ぶのはあなただけでは足りない。

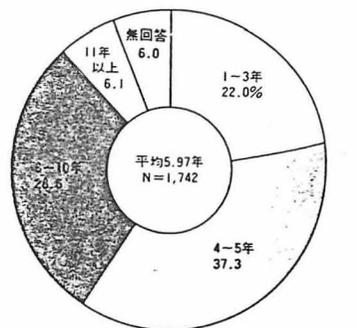
でもちよつと待って。まず、うんとお金がかかる。それに、MBAでもとるのならともかく、数か月やそこら海外に留学したからといって、英語がペラペラになるわけじゃない。よしんば英語ができたからといって、それが次の仕事にどれだけ役立つのか……？
● パツチリ実力をつけておこうと思えば、一年で三百五十万円は必要。退職したあとにこの金額は痛い。それならふだんから、英会話スクールに通っていたほうが、よっぽど安上がりだ。友達との真似をして、見栄で海外留学する必要はありません。

● 男の存在は、よく見える
じである。転職を重ねながら、キャリア・アップを図る。これが「労働力市場」というものだ。
年功序列だと、一か所にじっとしているほうが得。よほどのことがない限り、男性は動かない。これを「社賢明」という。こういうわけで、男性の労働力市場はないに等しい。女性だけがすぐ退社したり、転職したりするのは、まだまだ一人前の労働力と認められていないことの表れなのである。

● 男の存在は、よく見える
松爪大三郎(はしづめ だいさぶろう) 社会学者。「現代思想はいま何を考えればよいのか(勁草書房)」などの著者。……仕事も、家庭も、生きがいも。これは決してないはず。でもその最低限を満たさない、日本の企業社会はどこがおかしい。P.S. 社会科学院で取上げて欲しいテーマ、かねての疑問などどしどしお寄せください。

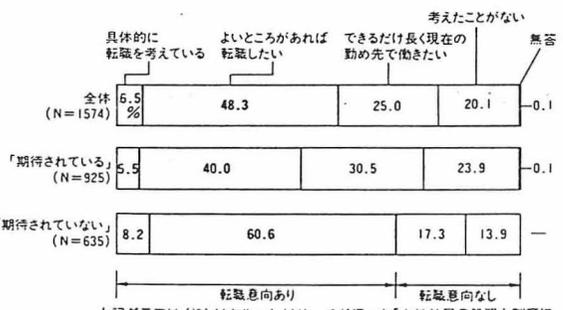
イラスト 橋爪生

▼女性社員平均勤続年数



上記グラフも「女性社員の処遇と制度に関する調査」の中の勤続年数に関する調査結果より引用。女性社員の入社から退職までの平均勤続年数は6年弱、また別の調査では結婚退職する率は、約6割という結果も。

▼ワーキングウーマンの転職意向(単一回答)



上記グラフは(株)リクルートリサーチが行った「女性社員の処遇と制度に関する調査」の中の転職意向についての調査結果をもとに当該集計で作成。会社で期待されていると感じるか否かで転職意向に差が表れています。

● 転職は日本をよくする
転職大いに結構。女性がよりよい職場や仕事を求めて移動すれば、女性に人気のない会社、女性を大事にしない企業は淘汰されて、女性の働きやすい社会が実現する。でも、あなたの転職が成功するかは、また別の話だ。いまの会社は本当に自分が必要としているのか、自分はいまちゃんと給料に見合う仕事をしているのか、もう一度じっくり考えてみよう。短気は損気。一か所でも道に仕事を続けたほうが、企業にとっても自分にとっても結局よかつたというケースは多いのだ。そのうえで、覚悟を決めたら……明日にジャンプ。幸運を祈ります。



予備選挙から党大会、本選挙までよく分かる アメリカ大統領選挙が10倍おもしろくなる

文・橋爪大三郎

あの朝のことは、一生忘れないだろう。

1963年11月23日、暗いうちに起きた私は、ちらつくブラウン管を見つめていた。その日の早朝、アメリカから初の衛星中継の画像が送られてくるはずだったのだ。ところが画面に飛びこんだのは「ケネディ大統領暗殺」のニュース。これは大事件と足が震えた。

1968年、今度は弟のロバート・ケネディ元司法長官が暗殺された。予備選に立候補、順調に勝ち進み、民主党大会で大統領候補に指名された直後の悲劇だった。1981年には、就任一か月のレーガン大統領が撃たれて、重傷を負ったという事件も起こっている。

こんな危険がいっぱいの合衆国大統領だけれど、地球で一番大きな権力を持つ人間でもある。4年一度、その椅子を争う季節がまたやってきた。そこで、アメリカ大統領選挙が、今月のテーマです。

●大統領は、現代のローマ皇帝!?
予備選挙、党員集会、大統領選挙人……。アメリカの大統領選は、なじみのない言葉が多くて分かりにくい。ここは合衆国憲法にさかのぼって理解するのが早道。ただし憲法といっても、アメリカの場合はしょっちゅう修正されているので、以下ではとりあえず、現在の憲法に話を限っておく。

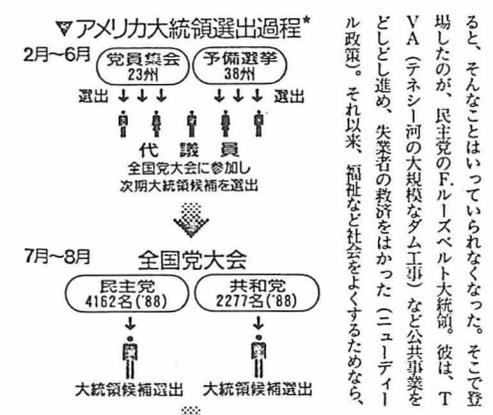
さて憲法の規定によると、大統領は4年に一回、選挙で選ばれることになっている。そして翌年の1月20日、ワシントンで就任の宣誓式を行って、ホワイトハウスの主となる。初代ジョージ・ワシントンから数えて、ジョージ・ブッシュは第41代目の大統領だ。
大統領は、国家元首で、行政府の長でもあり、米軍の最高司令官も兼ねるといって絶大な権限の持ち主。いうならば、現代のローマ皇帝だ。ちなみにローマ皇帝は、初めは世襲でなく元老院の選挙で選ばれたそうだが、もとは「市民の中の第一人者」という意味。大統領も、市民の中から選ばれ、尊敬を集めることは同じだ。
違うのは、大統領が独裁者にならないよう、幾重にも



要するに、「針の振れ」を大きくするために、今更さる名の大統領候補がいるのである。
民主党と共和党は、いつもいい勝負で競り合っている。この選挙で、つぎの選挙まで野党に負けてしまふ。政権交代のうまい仕組みだ。
●予備選が始まったのは、今世紀になってから
となると、民主党、共和党の大統領候補をどうやって決めるかが、とても重要になる。
大統領選挙の本番は11月。それに先立つ7-8月の党大会で、両党は大統領候補を指名する。各州からやって来た代議員の投票で、過半数を取ればいいのだ。
昔は、会場でいきなり名乗りを上げてよかったです。でもこのやり方だと、ドングリの背くらべて、指名にきつめるまで何十回と投票を繰り返さなければならぬ。衆議院の取り引きが幅を利かせて、一般国民の声をそっちのけということになりがちである。そこでだんだん広

閉止めがかけられている点である。例えば三権分立。予備や法律は議会が決める。大統領はあまり口を出してはいけない。大統領が閣僚を任命するのにも議会の承認が必要。ニクソンみたいに大統領の職務を逸脱すれば、厳しく追及される。大統領/議会/最高裁判所がお互いの暴走を監視する「チェック・アンド・バランス」が働いている。
大統領の任期が、再選されても二期8年で打ち止めるのも、大事な閉止め。共和党と民主党の二大政党制も、議会が大統領のいうなりにならないために大いに役立っている。

●ここが違う!? ソウの共和党V60の民主主義
大統領は、アメリカ建国の理念を象徴する存在だ。イギリスから独立するのに、各州ははらばらでは力が弱かった。そこで置かれたのが大統領職。外国の干渉を排除するため、軍事と外交を一手に引き受ける。けれどもそれ以外は何もしないほうがいいというのが、アメリカ本来の考え方だ。これを「小さな政府」という。
ところが、1929年の大恐慌で失業者が街にあふれると、そんなことはいってられないようになった。そこで登場したのが、民主党のF.ルーズベルト大統領。彼は、TVA(テネシー河の大規模なダム工事)など公共事業をどしどし進め、失業者の救済をはかった(ニューディール政策)。それ以来、福祉を社会をよくするためのなら



税金をどんどん使おうというのが民主党の政策である。共和党はそれに対して、政府はなるべく出しゃばらなく、伝統的な考え方をかたくなに守っている。
●たつた700選で大統領が選ばれる!?
ここでアメリカには、人種や宗教の違ったいろいろな種類の人々がいるので、ほうっておくとばらばらになってしまう。政治のいちばん大事な目標は、だから、この国を一つにまとめることである。
二大政党制は、この点、とても都合がいい。
アメリカでは昔から、政党といえは民主党/共和党のどちらか。資本家も労働組合も、黒人やユダヤ人も、どのグループも単独では政権をとれないので、適宜な政治家を見つけて、自分たちの主張を聞いてくれたら選挙で投票します。と取り引きする。当選するには、国民の大多数に受け入れられる政策を、公約しなければならぬ。嫌でも、多数派の意見(コンセンサス)にもとづいた政治をせざるをえなくなっている。

大統領選挙の仕組みも、同じ考え方だ。各州には人口に応じた選挙人がいて、その人たちが、その州でいちばん得票が多かった候補に投票する。例えば、得票率がブッシュ51%、クリントン49%なら、全員がブッシュに投票するのである。これだと、有権者がちよつと意見を変えただけで、選挙結果がガラリと変化することになる。

大統領のせいになされてしまったのである。
ブッシュ大統領は、湾岸戦争を勝利に導いた、非凡な大統領だ。戦争直後は、人気もへらへら高かった。そこで選挙対策チームが、再選は大丈夫とたかをくくっていたところ、国内問題への不満が噴出して、支持率は急降。保守派のブキャナン候補に足元を揺さぶられ、あわてて政策を右寄りに修正したりしている。
●クリントン候補に買はるか
それでも、共和党のブッシュ再指名はまず動くまい。じゃあ、民主党からは、だれが出てくるだろう。
予備選に出馬を表明した五名のうち、ハーキン候補、ケリー候補は早々に脱落。ブラウン候補も伸び悩んだ。3月10日のスーパー・チューズデーで南部諸州を制したクリントン候補が、二番手のソングス候補の大統領選戦線離脱によって、このまま指名を受ける可能性が高いといえる。

まってきたのが、各州ごとの予備選挙だ。
予備選とは要するに、人気投票。大統領の名乗りをあげた候補が、各州の町や村に出て、選挙民に直接語りかける。そして投票をして、その結果とおり党大会で投票すること代議員に義務づけるというやり方だ。これはうまいシステムというわけ。70年代にはすっかり定着する。カーターやハート、マクガバンみたいに、予備選でブームを巻き起こし、めきめき頭角を現す候補がいるから面白い。
●ブッシュはどうして苦戦しているのか
そこで話は、今年の大統領選挙になるわけだが、現職のブッシュ大統領が不人気に苦しんでいる。
昔は、現職が絶対有利といわれたものだ。でも76年のフォード、80年のカーターと、現職の落選が相次ぎ、最近では逆に現職不利といわれている。不景気やインフレ、財政赤字など国内政治の失敗は、全部大

ブッシュとクリントンの闘いとなった場合、どちらが勝つか、専門家の意見は分かれている。
ブッシュ有利の材料は、現職の強みと実績。ブッシュは最終に強く、前回は民主党のデューカキス候補に上増場で逆転勝利した。いざとなれば、クリントン候補の弱点(女性問題、徴兵連れの前置)をつく手もある。
一方クリントン候補は、若さと未知数の魅力が売りの。彼は高校生とき、ケネディ大統領と握手して感激。政治家を志したという。ブッシュ政治に幻滅した選挙民が、ケネディ再来の夢を彼に託すかもしれない。
●国内景気が、選挙の行方を左右する
いずれにしても、最後の最後まで結果が分からないのが、アメリカの大統領選挙だ。
ブッシュか、それとも民主党候補か。いざばん響くのは、国内経済の動向だろう。8年前、レーガン再選が支持されたのは、貿易や財政がどんなに赤字でも、とにかくインフレが収まって景気が上向いていたからだ。今年の後半、景気の回復が遅れるようだと、ブッシュを更迭して民主候補に投票する有権者が増えそう。
●国内景気が、選挙の行方を左右する
気になるのは、今回の選挙戦で、あまり外交問題が取り上げられていないこと。ロシアがよれよれいま、世界の期待は再びアメリカに集まっている。アメリカ大統領は、同時に世界の指導者でもあるのだ。今年の秋、アメリカの選挙民がどんな判断を下すか、ぜひとも注目しておきたい。

橋爪大三郎(はしづめ だいさぶろう) 社会学者。「照らし合う意識」(JICC出版局・共著)を出版したばかり。……クリントン氏をはじめ、アメリカの大統領候補は日本の政治家に比べて、みんな若い! 議員をだたら何十年もやらなくても、能力があって市民が支持すれば政権を担当できるアメリカのシステムを、少しは見習いたいものです。

イラスト 橋 伸生



あなたも絶滅にひと役買っている!? 野生生物を守る ワシントン条約の「ジュビ」まで知っているか?

文・橋爪大三郎

ライフルが火を吹く。
またライフルが火を吹く。
今日も象たちが、ぼたぼたと倒されていく。ここはアフリカ、象牙目録の密猟者の仕業だ。
このままでは野生動物が絶滅してしまう。そこで1973年、ワシントンに世界81か国の代表が集まり、「ワシントン条約(絶滅のおそれのある野生動物の種の国際取引に関する条約)が結ばれた(本号19ページの水田紀彦さんのコラムも参照)。日本もこの時、調印はしたものの批准は手間とり、ようやく1980年から正式に加盟(象牙やアフリカゾウの象牙、ワニ皮を輸入していた国内の業者の密輸入を手間どつたからだ。
毎日、種がひとつ消えていく……

大航海時代、産業革命の四百年間は、野生動物にとって受難の時代だった。ヨーロッパ人から見ると、動物たちは資源。たまたま手に入るのだから獲りつくされ、減らしていった種も多い。ペーリング海のステラーカイギュウ、モリシヤス島のドーデー(巨大なハト)。オーストラリアのシマワビ(カンガルーの仲間……)……
最近このテンボが早まっているらしい。1979年にはジャワトラ、1987年にはクアテマラカイツブリが絶滅した。調査が遅れている植物や昆虫も加えると、現在でも毎年約百種、今世紀の終わりにはなんと、毎日百種が絶滅するだろうというのが専門家の推定だ。
熱帯雨林は、種の宝庫。そこでは生きられない植物や昆虫が多すぎる。ここを乱開発すれば、それこそとり返しのつかないことになってしまう。
ワシントン条約のねらい

人間の都合で、動物物を永遠に地上からなくしてしまつていいのだろうか。そんなことをすれば、結局人間のためにもなるまい。そこで各国が協力して、絶滅を避ける手を打とうというのがワシントン条約の趣旨だ。
この条約には、「附属書I」がついていて、絶滅しそうな動物が三段階のリストになっている。
I(絶滅寸前のもの)……生きていても、毛皮や骨髄で

も、一切取引してはいけない。……ゴリラ、ジャイアントパンダ、トラ、サイ、アフリカゾウ、コンゴウインコ、シラカンサ、一部のサボテンなど、524品目
II(そのうち絶滅しそうなもの)……原産国の輸出許可がなければ売買してはいけない。……ホッキョククマ、カメレオン、コハクチョウなど249品目
III(数が減っているもの)……国ごとに定める枠内なら売買できる。……セイウチカナダクマなど243品目

貴重な野生動物が棲息しているのは、ほとんどが発展途上国。現地の人びとが動物物を捕るのは、先進国に売れば売ればいい。だから国際取引を禁止するが規制すれば、動物物を保護できるはず。……これが、ワシントン条約の考え方である。動物物の捕獲や採集そのものを取り締まるのは、各国政府に任されている。
条約は、抜け穴だらけ

ところが日本は、ワシントン条約に加入してからも大量の野生動物を輸入し続けた。ワシントン条約には「留保」といって国内法の準備が整うまでの間、例外として取り引きを認めるという規定がある。これをいって、1980年から90年までの10年間、たとえばタイマイ40万頭分が輸入されたと推定されている。条約の監督官庁が、なぜか環境庁でなく通産省のため、どうしても業界寄りになつてしまふのも一因だ。
もうひとつ、わが国のやり方は「水産物」として税関のチェックを逃がし、いったん国内に入つてしまつた取り締まりの方法がなかった。最近やっと、国内の取り引きを取り締まる「野生動物物の譲渡規制法」ができたが、附属書Iのリストに載つてさえいなければ売買自由、附属書IIの動物物でも、「所有しているだけなら構わない」という法律で、あまり効果は期待できない。
「保護」云々か、自然保護か?

政府の腰が重いのは、象牙やアフリカゾウの細工物をこしらえてきたわが国の歴史があるから。
アフリカゾウは最初、附属書II(取り引き可)の扱い

見栄を張る時代は終わった。日本は世界で、「一」を争う野生動物物の輸入大国である。そんな国の消費者である私たちがちょっと考え方を改めるだけでも、世界は大きく動くのです。
象牙を輸出して自然保護?

ところでよく考えてみると、ワシントン条約だけで自然を守るのとはとも無理である。この条約はあくまでも、動物物の「絶滅」を防ぐのが目的。絶滅のおそれなければ、どんなに自然を破壊しても条約の対象外。いちばんの問題は、いくら密猟を取り締まっても、経済

的な見返りが何もないこと。第三世界の国々は、自然保護ばかり叫ぶ「先進国のエゴ」に不満を強めている。
この3月3日、13日に開かれた京都会議(第8回ワシントン条約締結国会)では南アフリカの6か国が、ゾウはむしろ増えすぎたので、適当に殺して象牙を輸出し売上げを自然保護に回すべきだと提案した。それでは密猟が増えるとも配する他のアフリカ諸国の反対で、この提案はつぶれたが、問題はくすぶつていて。
ワシントン条約だけでは不十分だ

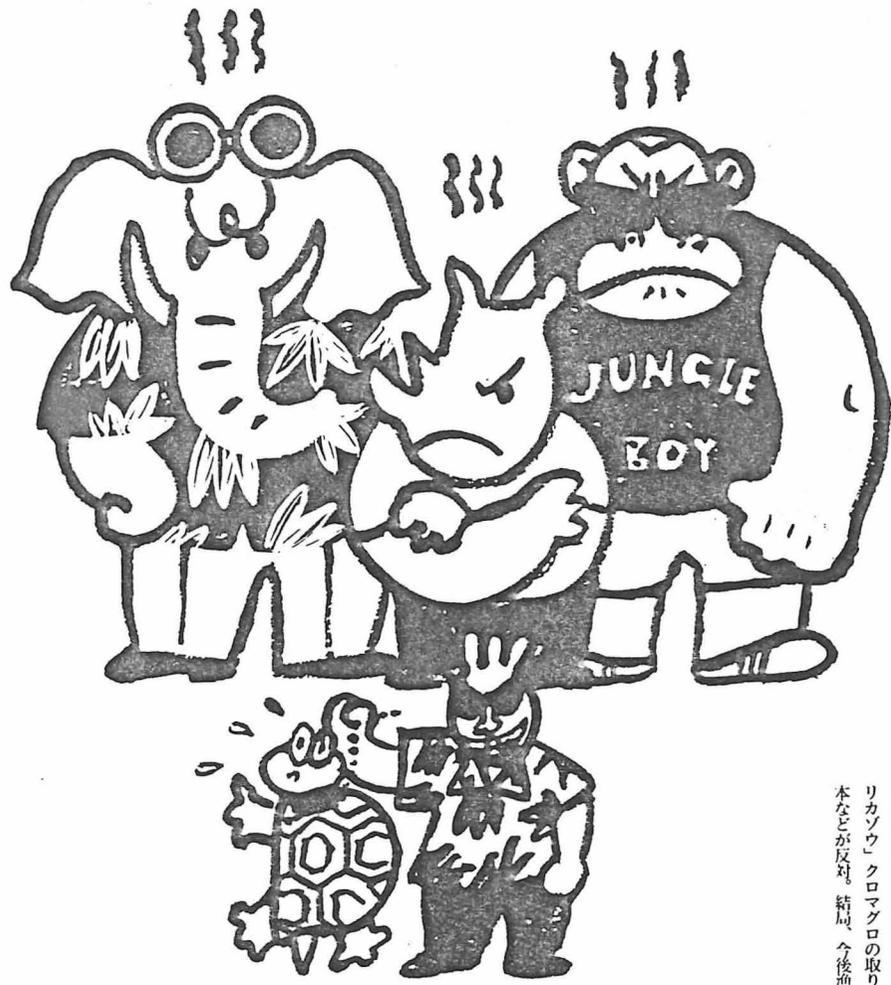
東して禁止を助けてもつた。自然保護団体は、特定の種ばかりを政治的に取り上げ、自然保護そのものをなおりにしている、会議のあり方に批判的である。
たしかに、熱帯雨林の自然野生動物物を守りたければ、別に方法を考えていなければならぬ。
たとえば、クジラ。クジラはワシントン条約でも保護されているが、捕鯨禁止の決めた手になったのは「国際捕鯨取締条約」だ。また、渡り鳥の保護の場合も、国際的な取り決めが役に立っている。
「ボーイデ」には愛をこめて

ワシントン条約の裏をかくて、書類を偽造したり原産国をこまかしたりして密輸をたくらむ業者もあつた。取り締まりにも限界がある。いちばん効果的なのは、消費者が、怪しい品物を買わないことなのだ。
百年ほど前には、安くて長持ちするということで、コアラの毛皮が、毎年たくさんオーストラリアから輸出されていたという。1930年にアメリカが輸入を止めなければ、コアラは絶滅していたかもしれない。いまもコアラの毛皮を欲しいという人は、まじりないだろう。でも昔時の人びとは疑問を持たなかった。私たちが知らずに、似たような過ちをいま犯しているかもしれない。

ペットブームで、爬虫類が大人気だ。でも、トカゲやカメのなかにも、ワシントン条約で保護されているものが多いから気をつけよう。熱帯魚も要注意。植物でも、サボテンやランのなかには貴重なものがたくさんある。死体(の一部)も同じこと。剥製はもちろんだ。象牙の印章やアフリカゾウの象牙、ジャコウジカの成分を使った香水もやめよう。

でもどうやって見分けたいだろうか? しようじにはなかなか区別がつかないので、私から簡単な見分けかたの提案。値段の高いものは危ないので、買うのを控えます。……「ボーナス」一回払い(せせこま)なんていうのはダメだ。安いものは数がうんと多いか、野生でなく飼育・栽培されている証拠である。貴重な野生種は、値段も高いのである。

でも本当は、私たちがとりまく自然のめぐみ、動物物の名前や生態についてきちんと勉強するのが本筋だ。そのうえで自然保護に関心のある人は、WWF(世界自然保護基金)の活動に加わります。関連して、ワシントン条約の違反がないかどうか監視する、トラフィック・ジャパンというボランティアの団体もあります。



橋爪大三郎(はしづめ だいさぶろう) 社会学者。民主主義は最高の政治制度である(仮題)。(現代書館・新刊)などの著書……野生動物を身の回りに置いて、自然を大切にしたいことにはなりません。人間には、地球のすべての生物を守っていく義務と責任がある。

ラスト/橋 伸

*TRAFFIC: Trade Records Analysis of Flora and Fauna in Commerce. 1992

連合の躍進で、自民党敗北は間違いなし どうなる参院選、政界再編成

文・橋爪大三郎

細川護国閣内閣が、日本新党を結成、今度の参院選にも候補者を立てると発表された。
 「文藝春秋」の6月号に掲載された、新党旗揚げは大きな反響をよび、細川氏はテレビ朝日系のニュース・ティーンにも出演、7月26日に投票の迫った参院選の目玉のひとつになりそうだと、これまでに議席をうんと減らしそうな自民党が、これを機会に、思い切った政界再編成を仕掛けてくる可能性もある。参院選の勝敗見通しは、いよいよ自民党も割れるのか? 今号は、開近に迫った参院選の大研究です。

●自民党の大負けは避けられない

参議院の定数は252議席、その半数を三年ごとに改選するから、今回は126議席を争う。
 前々回の一九八六年、中曽根政権下のダブル選挙(衆参同日選挙)では、がむしゃらに頑張る自民党の衆議院議員にひっぱられ、参議院の候補者も目一杯得票を伸ばした。そのときの71議席が今度改選になる。専門家の予測だと、よくて今度の当選は60議席とまり程度だ。
 これだと自民党は大負け。というのは、前回(一九八九年)の参院選で、自民党が大敗しているからである。このときは、リクルート、消費税、牛肉・オレオの自由化、宇野首相の女性スキヤナルの、いわゆる「4点セット」のおかげで国民から総スカンとなり、たった39議席しかとれなかった。

●野党が躍るキヤノン・ポード

今度も自民党が負け、ねじれ現象(衆議院では自民党が、参議院では野党が過半数を占めること)は解消されない。それどころか、いまよりもっとひどくなる。これは、自民党にとって大変なことなのだ。
 なぜかと言うと、自民党の負け方次第では、これまでのように公明・民社の協力だけでは、参議院の過半数に足りなくなるからである。

●細川新党は、連合つふしの農の手か

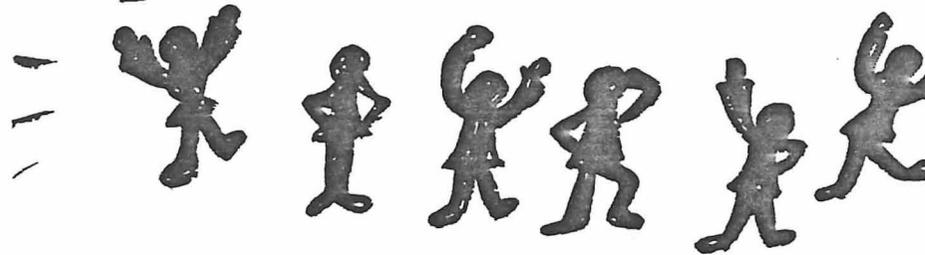
この前の選挙で連合がチームになったのは、既存の政党に飽き足りない「支持政党なし」の有権者が、いまの政治に変化を求めて連合候補に投票したからだ。これに

が、それ以外のどんな法案も、衆参両院を通過しなければ法律にならない。つまり、野党がウソとわなない、日本の政治はストップしてしまうのである。

●連合のチームはとまで強く

そこで自民党は、参議院の公明・民社の協力をおおぐことにした。両党を合ませると、過半数の177議席をゆうに上回る。逆に言うと、これまでの三年間、自民党は社会党に頭を下げていた。60議席程度しかとれないとすると、公明・民社を合わせても参議院の過半数に足りない。どうしても、社会党が連合参議院か、どちらかの協力が要る。

この連合が、前回の参院選で大躍進した。12人の候補者を立て、口が参議院今年に入っても奈良、宮城の補欠選挙で勝ち、現有議席は13、7月の選挙もこの調子で勝てば、参院で25議席程度を確保し、公明党を抜いて野党第一党になる可能性もありそう。



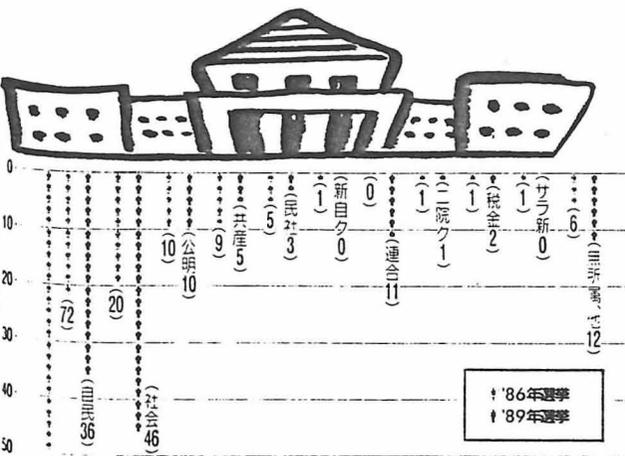
橋爪大三郎(はしづめ だいさぶろう) 社会学者。現代の預言者・小室直樹の学問と思想(対談・弓立社新刊)などの著書。……政治改革が必要なことは、みんなわかっているのに、いざとなると政治家はやる気がない。あきらめないうち、国民が政治家を監督していかなければ

ラスト 橋爪

ベラルな一部」を巻き込んで、自民党に対抗する政権政党を作ろうというもの。参院選挙で自民党が負け、衆議院が解散するまでの数か月間、社会党が政権を担うして選挙管理内閣を作ってもいい、ともいっている。どちらのプランも、ねじれ現象をなんとかしようというところはよく似ている。

竹下派は自民党の最大派閥。これまでは、党内のほかの派閥に目を光らせてはよかつた。社会党をはじめとする野党は、お呼びでなかつた。

ところが、衆参ねじれ現象では、党内の派閥より、野党をしっかりと味方につけておくことが大切になる。今度の国連PKO法案も、公明・民社の賛成がなければ成立



▲ 前回・前々回参院選挙の党別獲得議席数

●竹下派は、衆参あわせて二百名に!!

今度の参院選のうひつの特徴は自民党が議席を減らしそうなの。竹下派だけは結構善戦しそうなことだ。今回出馬を予定している竹下派の候補は、32人、公認候補の四割にもほぼ。衆議院では、130の選挙区で一人ずつ当選させ、ゆくゆくは合計200人の大集団を目指すのだ。小沢元幹事長は豪語している。

ここまで大きくなるかどうかは別として、竹下派が数の力で他派を圧倒しているのは確か。このこと自体、自民党のあり方をかなりいびつなものにしている。

自民党はもとと、総裁候補を中心にした、50~70人程度の派閥が五つ六つ集まってきたもの。そのいくつかが同盟を結んで主流派となり、政権を担当してきた。ところが田中派(竹下派の前身)が拡大しはじめたところからバランスが崩れはじめ、最近では竹下派が万全主流派として、キングメーカーの地位を握っている。これは言うならば、自民党のなかにもうひとつ政党があるようなものなので、自民党としての結束はかえってゆるんで来ているとも考えられる。

●どうなる、参院選後の政局

参院選で惨敗した場合、自民党が割れるなどといった政界再編成はあるのだろうか。

自民党は四十年近くもずっと、政権を担当している。みんな大臣にならなくて、政治家になった人たちはかなりである。わざわざ野党になりたいとは思えない。

だから、自民党が割れるというのはよくよくのこと。参院選で負けたくらいで、そこまでのことではないだろう。民社・公明(それに細川新党)を加えて参院の過半数が取れるなら、なにも変化なし。

問題は、それでも過半数に達しない場合だ。自民党としては、まだイデオロギーにこだわっている社会党よりも、柔軟な連合のほうが組みやすいが、問題もある。連合が、正式な「政党」ではないことだ。選挙区では社会党や民社党のような公約をしておいて、国会で自民党に協力するというのでは、有権者が取まらない。

社会党も、自民党と手を結ぶのは一大決心。とても党内がまとまりそうにない。となると、政局が混迷し、衆議院の解散が早まるかもしれない。いずれにせよ、自民党単独政権は、事実上終わりを告げつつある。これからどういう政権をつくるのか、有権者の賢明な判断が求められているのです。

国民一人あたり二万四千元、税金の行方が知りたい 本当に役に立っているのか、ODA

文・橋爪大三郎

給食の粉ミルク。
そういうのが、昔はありました。

でも、ますますいっただらなかつた。飲まない先生に怒られるし、昇床中は苦痛そのもの。給食室の裏には星条旗をあしらった援助物資の空箱がずらりと並び、アメリカがこんなものをさくねればと恨めしかった。貧しかったあのころの日本は、こんな援助をたくさん受けていた。私の飲まれた脱脂粉乳は、アメリカでは家畜の餌だったらしいが、でもおかげで栄養失調にはならなかった。アメリカは、あまった農産物を無駄にしないで済むし、日本は給食費が安くて済む。こういううまくい援助の仕組みが、ODAだったのである。

● 真しい国のある限り……
ODA「政府開発援助 (Official Developmental Assistance)」の頭文字を並べたもの。先進国が開発途上国に向けて行うさまざまな援助の総称だ。

ODAには給食の粉ミルクみたいに、ただくれるもの(無償援助)もある。あとで返済約束の借款(借金)もある。東海運幹線も東四アムも、東名高速も、みんな外国からの借金(有償援助)でこしらえた。借金を払い終わったのは、つい一九九〇年のことである。

● ODAは、無償のよきものか
そんな日本がいつの間にか経済大国に成り上がり、今度は援助する側に回っている。とくに一九八六年以降に援助額が急増。一九八九年にはアメリカを抜いて世界第一位になった。一九九一年度のODA予算は、総額一兆八、七〇九億円、国民一人あたり一萬四、〇〇〇円を援助に回しているのだ。ODAは、世界経済の潤滑油のようなもの。資本や技術の不足する開発途上国にとって、なくてはならない命綱になっている。

● ODAは、無償のよきものか
どうして先進国が、わざわざ税金を使って、開発途上国を援助しないためのものか？
民間企業にまかせようまくいくのなら、ODAなんか

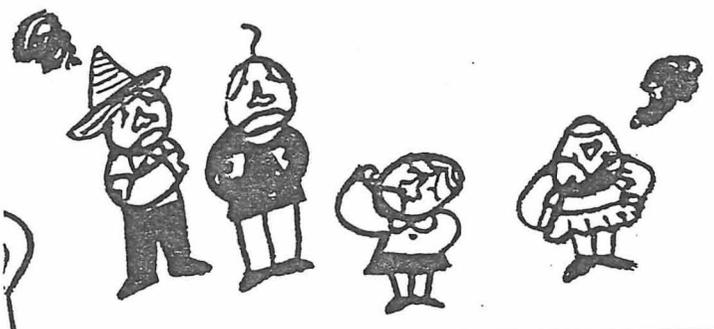
いらぬ。たとえば、日本企業が現地に工場をつくり、順調に操業して採算が取れるなら、その国の経済はみるみる発展するだろう。雇用も生まれ、波及効果も大きい。外貨だって稼げるかもしれない。

● ODAは、無償のよきものか
でも、企業も断念だから、採算が取れないところは進出できない。経済が低迷している国ほど、なかなか経済成長のチャンスがつかめないことになる。

● ODAは、無償のよきものか
企業が二の足を踏む理由は、いろいろある。たとえばカントリー・リスク。ゲリラやテロ犯がうようよしていて政情不安定だったり、インフレで経済がメチャメチャだつたりしたら困る。そこまで行かない国でも、電力・鉄道・港湾設備・下請け産業など、事業が軌道に乗るための条件(インフラ・ストラクチャー)が整っていないければ、進出はためらわれる。

● ODAは、無償のよきものか
そこで、そうしたインフラを整えるため、先進国の政府が資金を援助し、まず発電所やダム、道路、港湾などの社会資本を充実させよう。そのあとは民間企業がやってくれよというのが、ODAの考えだ。だから無償援助が多いわけだし、有償の場合も利子を低くしてある。言ってみれば、大人の食べ物を食べられるまでの間の養育費、みたいなものなのだ。

● ODAは、無償のよきものか
では、ODAはどんな手続きで相手国に届くのか？
わが国は、最近、ODAに本腰を入れるようになったばかりなので、法律や制度の整備が進んでいない。手続きも複雑なので、大事なところだけを説明しよう。
ODAには大きく分けて、二国間援助(日本が相手国に直接援助する)と多国間援助(多くの国が国際機関に資金を拠出して援助する)の二種類がある。国際機関には、国際開発金融機関や世界銀行などがある。
また二国間援助にも、技術援助と資金援助がある。技術援助とは、青年海外協力隊を派遣したり、技術研修生を受け入れたりと、相手国に技術の移転をはかるもの。



橋爪大三郎(はしづめ だいさぶろう) 社会学者、「小室直樹の学問と思想」(弓立社新刊・共著)などの著書。……冷戦が終わった結果、東独、東欧、旧ソ連の国家など、資金援助の必要な国が増えました。その分、ODAがおおざりにされている。日本はかんばらねばならない。

イラスト/橋爪大三郎

● ODAは、無償のよきものか
日本のODAは、有償援助の割合が高いのが特徴だ。欧米は無償援助が中心なので、日本も努力して無償援助を増やし、最近半々に近づけたところだ。

● ODAは、無償のよきものか
ただ、無償援助のほうがいいと、いちがいに言えない。無償援助は「ひもつき」(資金を提供した国の商品を買わないといけない)の場合が多い。それに加え、緊急食料援助みたいな場合はいざ知らず、あげつらした無償援助はとくに無責任をまねきやすい。有償援助を受けて道路や鉄道を作り、それを活用して産業をおこす。借金を返さないと必死にがんばり、税金を集めて返済する。それがあつて、自立を助けるのが本当のODAだ。

● ODAは、無償のよきものか
ODAの資金も、元はといえば国民の税金や、郵便貯金、大事に使ってもらわないと困る。もしもODAを批判

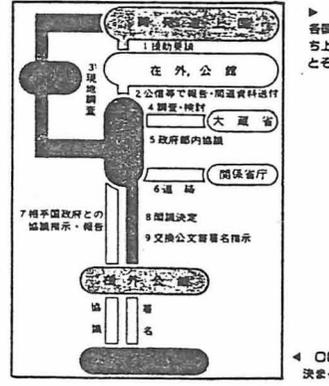
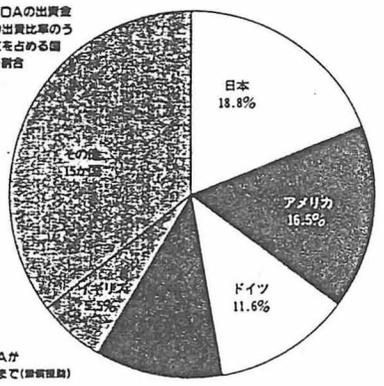
● ODAは、無償のよきものか
本屋さんに行くとき、「無償援助大日本」(ノー・モアODAはらまき援助)といったタイトルの本が並んでいる。巨額の援助を、一部の日本企業と相手国の有力政治家が食い物にし、ちっとも現地の人びと役に立っていない。それどころか、開発の名のもとに自然破壊し、環境を汚染し、現地の人びとの生活をかえって苦しめてしまっている。そういって批判だ。

● ODAは、無償のよきものか
ODAがとかく色メガネで見られるのは、相手国の政府が、なかなか自力では開発計画を作れないからだ。日本のODAは、要請主義(援助を命ずる国が、自分で計画を作って申し込む制度)をとっている。ところが、申請書の書き方がむずかしい。そこで、その道のプロ、日本の商社や開発コンサルタント会社が手取り足取り手伝うことになっている。自分で計画を作っているわけだから、日本企業の受注が多くなるのは当たり前だ。これだけならまだいいとして、ありがたみが裏切りベ

● ODAは、無償のよきものか
ODAに限らないが、商談がまとまると日本企業が、相手国政府の高官に口利き料を何パーセントか渡すのが慣例になっている。かつてのマルコス大統領みたいに、腐敗がはびこったのでは困りものだ。国会が、ODAをテラクサすべきだ。

● ODAは、無償のよきものか
と、いろいろ問題はあつても、今後の第三世界の発展のために、ODAにますます力を入れなければならないのは確かだ。それにはお金を出すだけでなく、国民がきちんと援助のあり方をチェックできる仕組みを追求すべきだ。援助が本当に相手国の役に立っているか、裏切りベトのような不明はないか、それをせむことも、国会がチェックしなければならぬ。それ以外にも、相手国の事業支出が多過ぎないか、人権や自然環境を守っているかなども見張っていくべきだ。

● ODAは、無償のよきものか
国民の血と汗の結晶である、税金や郵便貯金・年金を使うのがODA。それなのに、いまの制度では政府がすべてを決め、国会には何の相談もない。せめて決算委員会などで、あるいはODA特別委員会を作って、税金が正しく使われたかどうか、チェックすることすべきだ。これは、日本の有権者の当然の権利である。と同時に、第三世界の人が公平な援助を受けられるための、最低限の責任であるとも思うのだ。



● ODAは、無償のよきものか
これを、国際協力事業団(JICA)が担当する。JICAは外務省の外郭団体で、無償資金協力(贈与)の手続きもこころやる。
いっぽう有償の資金協力(借付)のほうは、海外経済協力基金(OECF)が一手に扱う。バックには外務省・大蔵省・通産省、経済企画庁の援助関連(四省庁)がひかえていて、どの国のどういう計画に、いくらくらいの資金を貸しつけるのかがいいかを協議して決める。
● 自立のための援助
相手国の人びとの「どうにか」になり、ゆゆしい事態だ。たとえば、インドの「ナラマタ河川プロジェクト」がこじれている。大きなダムを作って、水力発電や灌漑に利用しようという計画を、立ち遅れ問題が片づかないのにスタートさせてしまい、政府と住民が激しく対立している。こういうことだと困ってしまう。

*1. JICAは、外務省からのデータを参考に、また日本のフローチャートは「経済協力参加への手引き」(外務省国際協力推進委員会)の引用をもとに編纂して作成しました。



オウム真理教から統一教会まで、若者を引きつける 第二次宗教ブームの実像をさぐる

文・橋爪大三郎

♪ようこそここへ、ククク……

と、「私の青い鳥」で一世を風靡した坂田洋子さんも、今年三十四歳。中三トリオのなかでは、人だけまた独身だ。なあと、思っていたら突然、6月の読友見で統一教会の合同結婚式に参加すると発表。8月25日には、ソウルで挙式をすませた。元オリンピック選手の山崎浩子さんも同じ日に挙式、日本中をびっくりさせた。

● 宗教を、特別のことと思わなれ

日本人はとかく宗教を、なにか特別なことと思えがらである。でもそれは、いわれない偏見というものだ。安物の傘を人だまして高値で売りつけたら、子供にセックスを強要したりしたら、そりゃ困る。でもさういうのは例外で、たいていの宗教はとも、キリスト教だつて大昔は、こっそり集まって人肉を食べているなどと、根も葉もない中傷に悩まされたものです。

ヨーロッパでもアメリカでもイスラム世界でも、多くの国では、神を信じるのは人間として当然のこと。信仰は日常生活にすっかり根づいている。国民の大多数が無信仰、なんていう日本のほうがむしろ少数派だ。

● こんなふうで日本で、宗教の社会的地位が低いのは、江戸幕府の政策のせいだ。切支丹に手を焼いた幕府は、家ごとの宗旨を、宗門人別帳に登録。勝手に宗旨を変わってはいけないとした。信教も禁止したから、お坊さんは穿ぎぐらしかやるのがなくなりました。

明治維新のあと、キリスト教がもう一度入ってきた。新しい宗教もいっぱい生まれた。こうして出現した、江戸時代になかった宗派を、新興宗教という。

● カミとホトケはここが違ふ

新興宗教はたいてい、古手の宗教の改訂版になっている。そこです。仏教やキリスト教についておさらいをしておくことにしよう。

ットで修行を積み、最終解脱を果たしたという。空手道遊などさまざまな超能力をマスターしたという。

この教団は、原始仏教(インド古来の宗教)のあり方に、比較的忠実だ。出家の制度があり、静かな場所ですべてをこなしたり瞑想にふけたりして修行をすすめる。

こういふ生き方は、日本仏教の批判でもあると思う。日本のお坊さんは、お酒は飲むし、結婚もするし、仏教の戒律と無縁である。そんなのは正しい僧侶でない。出家の根本にかえらう。そういう主張が、物質生活にあき足らず精神の安らぎを求める若者にアヒールした。

● 唯霊論の、幸福の科学

オウム真理教が仏教に近いのに対し、幸福の科学は、

日本人は、神さまと仏さまをよくゴツチャにする。でもこの二つは、全然別々のものである。

キリスト教の神さまは、人間を下りてくれた。まったく違つた生き物だ。神さまは主人、人間はその家来である。その主人の言うことを聞かないで、人間は神さまに逆らつてばかり。おかげで、最後の審判の日には滅ぼされてしまふぞうだ。さうならないよう、神の子イエスキリストに祈りましょう、というのがキリスト教だ。

● いっぽう仏とは、人間の理想的な極限のあり方。お釈迦さまは、だれだって修行をつめば、仏になれる。出家を重視する小乗(音訳)の活動を重視する大乘の道はあつても、成仏をめざす基本は同じだ。

キリスト教の神さまがたまたま、人なのに、仏さまが大勢な理由もこれわかる。仏さまは、覺りを開いた先達たちなのだ。いくら先達でも、後輩に伝はれなれど、そのこととはできない。成仏は、あくまでも本人の努力次第。仏教はともども、個人主義の宗教なのである。

● 日本では、死んだらカミさま

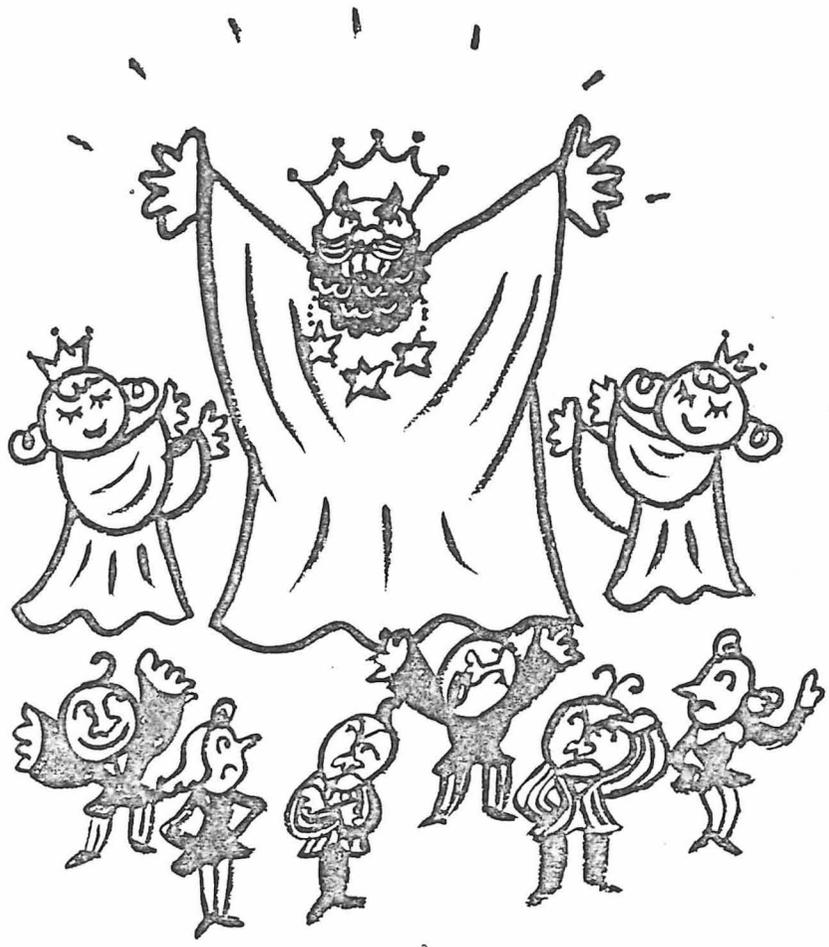
さて、キリスト教の神さまと別に、日本には昔から神さまが大勢いるからやかし。そもそもキリスト教の御座を、同じ「神」と訳したのがよくなかった。日本人の考えるカミは、人間が死んだ後の霊魂みたいなもの。さういふものがあたりをさまよっていると考える。そこで、タタリのないよう「穢れ」をとり、早々に引き取り願う——これが、典型的な日本人の発想だ。

● 超越宗教・対・利益宗教

仏教もキリスト教も、この世の権力や富にさらわれたい価値があるという教である。だから、「超越宗教」と呼ばれる。いっぽう日本の神道は、病気が治つたり悪作だったりの、現世利益が中心。そこで日本の教も、仕方なく「利益を看板にして信者を集めてきた」。

● 戦後、日本社会は大きく変化した。人々のとまどいや

仏教やキリスト教や、あらゆる宗教をひとつに統合してしまおうという意図がある。さつきも言ったように、神と仏はまったく違つた存在だ。けれども、大川隆法さんの主宰する幸福の科学の考え方には、神や仏の具体はさだかという。そもそも、宇宙その他の存在、偉大な宗教者になり、最後に地球や他のわれ人間になつたという。すなわち人間は、永遠の生命をもつたまで、立派な修行人の最中である。そのことに目覚めるのが「幸福の科学」。いろいろな高僧が下りてきて、大川さんごとのことを教えてくれた。大川さんの著作は、その「福音書」である。



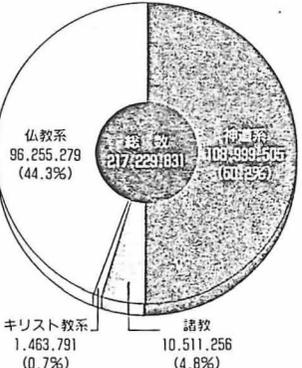
イラスト/橋爪大三郎
橋爪大三郎(はしづめ だいさぶろう) 社会学者 民主主義は最高の政治制度である(現代書館)との著書……第三のあまたす神異な雰囲気、若者を引きつける教団がよくあります。でも、たいてい、長続きしない。自分の心を見つめるのにも、根気と努力と時間がかかるのです。

不安にたえるため、新卒の新興宗教が沢山現れた。それらは、創始者や正統派のようには目連者か、さもなければ神道系に、だいたい相場が決まっていた。そしてどの教団も、不幸な人々を幸せにする「利益」を約束して、信者の心をつかんでいた。

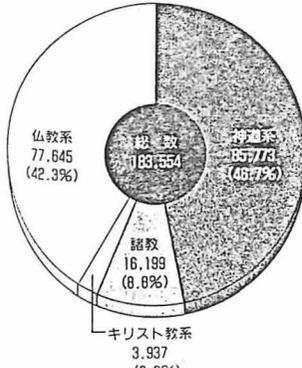
● 新興宗教はここが新しい?

だが、ここ数年話のオウム真理教、幸福の科学、統一教会は、「利益をあまり強調しない。消費社会に育った若者は、もう「利益」を感じないのかもしれない。たとえば、オウム真理教。教祖の原形影見さんかチベ

我が国の信者数 (平成2年12月31日現在)



我が国の社会教会等単位宗教法人数 (平成2年12月31日現在)



幸福の科学は、大川さんの本を説けば、すぐ全員になれる。特に出家などしなくても、これで「幸福」なのだ。と教えられる。サラリーマンには都合のいい宗教だ。

幸福の科学は人がかりな宣伝で、急成長した。しかしかなり背伸びをしていたら、バブル宗教などと言われていた。それに、大川さんの言うことは、G.L.A.という別な教団(教祖・高橋信次さん)の教えとなせかそっくりなので、するに高橋さんかと思ってしまう。

● どうして合同結婚式なのか

統一教会、世界基督教統一神霊協会、韓国の文鮮明という人が始めた。キリスト教を名乗るが、韓国では異端として、キリスト教扱いされていない。統一教会は、人間の罪が男女の性行為によって受け継がれていく、と説く。これを断ち切るには、統一教会の定める儀式にしたがって、正しい結婚をしなければならぬ。いきおい、信者同士が結婚するしかない。だれとだれが結婚するかは、教祖が本人に代わって決める。

これにはいろいろ批判もあつたけれど、十歳すぎの本人が納得しているなら、たれと結ばれよう、合同結婚式をあけよう、まったく自由だと私は思う。た、坂田さん、山崎さんの結婚が発表されると、問い合わせの電話が殺到したというが、ちよつと待って、結婚日ごとの入信は、そりゃ邪道すよあなた。

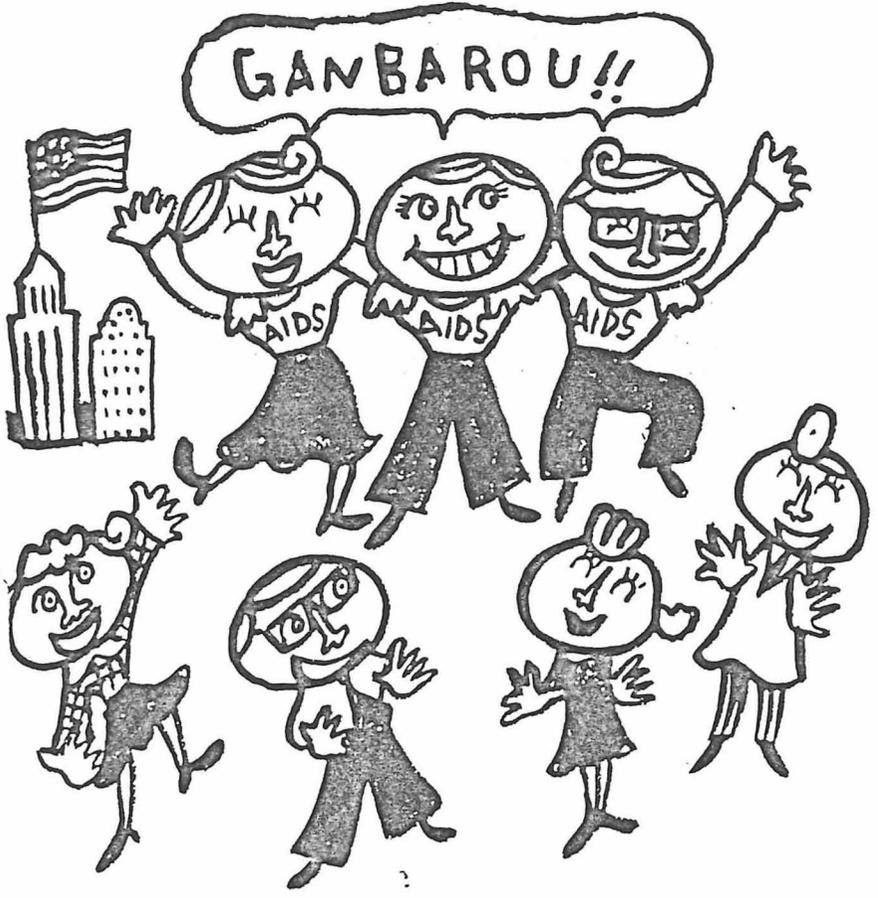
それより問題なのは統一教会が、信者を使って大量の資金を集め、事業資金や政界に使用していると言われていた点。幸福の科学も、必ずしも法に触れないのかもしれないが、活動の資金を、信者や一般の人々にわかりやすく説明するのがフェアだろう。信者には真面目でいかなる人か、統一教会の責任は重い。

● あまりにも、宗教のことを知らない……

マスコミの新興宗教の取り上げ方も問題だ。超能力や霊界ブームといつてもいいけど、困る。宗教は、人間の生きる悩みや心の問題と直結している。新興宗教が流行るとすれば、既存の宗教では満たされない何かがあるはずだ。新興宗教の門を叩く若い人々にも、私は言いたい。日本人は何にしても、宗教にウナなのだ。世界に目を開けば、人類の貴重文化遺産となつている。本気で本物の宗教がいくつもある。それに見劣りしないことを確かめながら、選んでいくのがいい。

アジアでいよいよ、爆発的流行の兆し しのびよるAIDSの恐怖

文・橋爪 大三郎



イラスト/橋爪大三郎
橋爪大三郎「はしづめ だいさぶろう」社会学者 小室直樹の学問と思想 (弓立社・共著) などの著書……7月ごろに予定されていた厚生省のヒル解禁がエイズ対策のため、延期になりました。残念ですか、多くの人びとの命にかかわる問題ですから、これもやむをえないでしょう

一九八五年、日本で最初のエイズ患者が見つかった。以来、今年の8月まで、この患者となった人の合計は四九七人。発病はまだまだ、エイズウイルスに感染している人の合計は、三、三六九人である。

意外に少ないなあ、なんて思わなくてほしい。この数字は、ほんの氷山の一角、感染しているのに気づかない人か、この10倍はいる。その人たちは、知らずに他人にエイズウイルスをうつすから、やがてみな発病し、死んでいくのだ。

わが国のエイズ感染者は、毎年2・5倍の勢いで増えている。しかも同性愛でなく、男女のふつうの性交渉で感染したケースが多くなってきている。

自分だけは大丈夫?

エイズについて知っていますか……ハイ95%。エイズ患者はもっと増えると思いませんか……ハイ71%。(総理府の調査、一九九一年九月実施)

ここまでは、なかなかよろしい。でも、自分がエイズになるのか、不安ですか……ハイ20%。エイズはほかの人がなる病気、自分は平気さ、と日本人はなんの根拠もなく思い込んでいるのだ。これが危険。パンコクの売春街の女性は、半分以上が感染者だともいう。ところが日本人男性は、コンドームをつけたからいい、なに、一回や、回ではうつらないよ、オレは大丈夫。そして、感染者になって帰ってくる。

エイズとは、こういう病気

AIDS(後天性免疫不全症候群)の病気が恐ろしいのは、まったく治療法がなく、発病したら2〜3年で確実に死んでしまうからだ。その仕組みを理解しよう。(レトロウイルスとか逆転写酵素とか、本誌の説明は頭が痛くなるので、たとえ話をしてみます)

あなたの身体を、この社会にたとえてみよう。安全のため、お巡りさんがハトロールしている。交番や警察署もあって、全体として患者(細菌やウイルス)を取り締

まる仕組み(免疫系)がきている。

この仕組みで、たいいてい患者は取り締まれる。ところがHIV(ヒトエイズウイルス)は、この取り締まりの仕組みそのものを壊してしま

HIVは変異がうまい(蛋白質の配列をしょっちゅう変えてくる)ので、職務質問をまよまよとかわし、大膽不敵にも感染(ヘルパーT細胞という白血球の一種)にも入り込む。そして、感染が免疫系を混乱(逆転写)し、患者の仲間に加わってしまう。気がついてみたら、感染者のなかには患者(HIV)だらけ。これが散らばって、こんどはよその感染にも入り込む。

そこぞ機動隊(キラー細胞)が出動する。乱暴なようだが、怪しいとらんだ感染者を、まよまよと押破してしまふのだ。HIVが入り込んで数ヶ月、エイズに感染したことがわかる(抗体ができる)のころだ。

それでもHIVは、変異を繰り返しながら、じつと潜伏している。そして8〜10年後には感染者を全滅させ、取り締まり体制をカタカタにしてしまふのだ。

こうなると、本質はおとなくしているはずのコンコ泥やチンピラ(カリニ原虫やカンジダ菌)が、わがもの顔でさばり出す。そしてあちこちで嵐がきた。肺炎や全身衰弱)をひき起こし、社会を解体してしまうのだ。

エイズウイルスはいつ現れた?

エイズなんていう病名は、昔はなかった。いったいいつ、どうやって現れたのだろうか?

いろいろの人が調べたとらによると、HIVはいまから10年近くまえ、アフリカに現れたのが最初らしい。さらに調べてみると、アフリカのサルがやはり似たようなエイズウイルス(SIV)を持っている。ただしサルは、エイズのような病気にはならない。このウイルスがなにかのきっかけで人間に入り込み、形を変えて暴れ出したのではないかと、とも考えられている。

ついでに言うとアフリカで、HIV-2という、もう一種のヒトエイズウイルスが見つかった。そのほか、

エイズウイルスは、大変に感染力が弱い。だから、1〜3以外の方法では、患者と握手してもキスしても、まったくうつらない。ふつうに、一緒に居ても、まったくさしつかえない。

エイズを予防するには、この感染経路をシャットアウトすればよいわけである。

1の血液。昔は、血友病の人などのための輸血の血液にウイルスが混じっていた。感染したケースが多かった。いまは厳しくチェックしているから心配はない。あと、他人の血液に触らないようにすること。他人が打った麻薬の注射針を使うなどもってのほかだ。

2の性交渉。肛門は傷つきやすいので、同性愛の人のびとがうつり感染したが、最近ではエイズキャンヘンが効果をおいて、予防が進んでいる。むしろこれからは、男女の性交渉が問題だ。百回に、一回の割合で感染するといふが、ほかの性病で皮膚がびらんしていたりするとぐんとうつりやすいので、要注意である。

対策は、中決まった相手以外とは性交渉しない、(2)コンドームを必ず使う、の二つ、これっきやない!

3不幸にしてエイズに感染してしまつたら、妊娠はしないほうがいい。生まれてくる子供の30%が、母親のエイズに感染してしまう。万、健康で生まれても、間もなく親が死ぬから、孤児になってしまう。

エイズはどんどん増えている

エイズがどんなに恐ろしい病気か、気がついたときには遅すぎる。何しろ潜伏期間が十年もあるのだ。アメリカでは現在、20〜40歳の男女の死因のトップがエイズ。患者は、七万人で、毎年増え続けている。感染者は推定で、二億人にもなる。推定が、万人と推定されている。全世界の感染者は合計、万人、これが、一年には四、一万人にふくれあがるといふのが、WHO(世界保健機構)の予測である。

エイズかもしれないが、と思ったら

性交渉の経験がある人なら、だれでもエイズに感染する可能性がある。特に、彼氏が人気が高い人や、浮気な彼氏がいる人は気を付けよう。

心算たりのあつた日から3か月ぐらいたしてから、保健所の検査を受けるのがいい。電話して予約すること。費用は、問ぐらいい、匿名でもいい。検査後、週間くらいで、本人に結果を伝えてくれる。

エイズに感染していると言われたら、医師の助言を受け、体力を落とさないように気をつける。そして、ほかの人にエイズをうつさないこと。あとはふつうに生活していればいい。免疫力が落ちてきたら、AとFという薬をのむと、時に効果がある。そうやって、なるべく発病を遅らせる。

いよいよエイズが発病したら、感染性の強い入院費や薬代で、五、万円ぐらいいかかると言われており、大変な負担だ。早めに医療保険に入っておくべきだ。

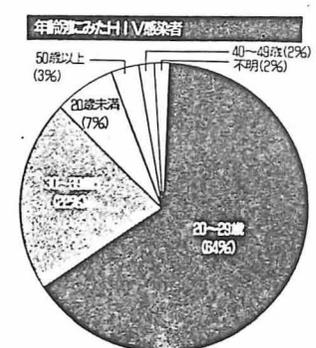
友達がいかに大切か

いままごとおり、友達としてつき合ってきたきいエイズにかかって、重苦しいのは、周囲の人びとの偏見だ。という、当人の苦しみに、追いつかないようなまねはいけぬ。そしてこれを機会に、ほかの友達に、エイズがどういうものか正しく伝えてあげてほしい。

世界の地域別エイズ感染者発生状況(累計)

年	アフリカ	北アメリカ	アジア	ヨーロッパ	オセアニア	合計
1979		14				14
1980		80		4		85
1981		357	1	20		378
1982	3	1,411	2	92	2	1,510
1983	17	4,599	10	310	8	4,944
1984	99	10,866	14	898	53	11,920
1985	305	22,168	43	2,290	177	24,973
1986	2,745	39,258	97	4,915	417	47,433
1987	8,692	56,890	224	8,767	742	75,315
1988	20,904	93,655	285	16,875	1,180	132,899
1989	38,249	134,539	494	28,576	1,742	203,599
1990	61,019	188,211	872	41,247	2,562	314,611
1991	152,463	277,042	1,552	66,545	3,670	501,272

注: 推定値、*推定値、**推定値



年齢別にみたHIV感染者数は、厚生省が9月に発表した'92年7月から8月末日までに報告があった数字を年齢別に分類したものである。左表はWHOの発表による世界の地域別エイズ患者発生状況。アジアで急速に増加している。

ユーゴスラビアの戦火が追い討ち 前途多難なEC統合の長い道のり

文・橋爪 大三郎

バルセロナの、抜けるばかりの青い空。女子マラソン・有森選手の変顔や、数々の思い出深いシーンを残して、オリンピックは幕を閉じた。CIS(旧ソ連)選手団は、今回の参加が最後になる。いつば、リトアニア、エストニアなど半世紀がかりに参加した国、スロヴェニアなど初参加の国々も目立った。統一を果たしたドイツも、三色の国旗を掲げて行進した。今世紀中には、ヨーロッパ共同体(EEC)が、正式に発足することになっている。そのときには、青地に12の星をあしらったECの旗を掲げて、統一選手団がオリンピックに姿を見せるかもしれない。

「マーストリヒト条約」とは?

ヨーロッパの国々が国境の壁を超え、ひとつの共同体(EEC)を目指すという協議が、一九五七年のローマ条約でまじった。それを踏まえ、一九九一年十二月にオランダのマーストリヒトで結ばれたのが、欧州連合条約別名、マーストリヒト条約という。

EEC加盟12か国が調印したこの条約は、①遅くとも一九九九年までにEECの中央銀行をつくって、各国の通貨を廃止し、ECU(欧州統一通貨)に統一する、②外交や国防の権限をEECに集中する、などを決めたもの。来るべきEECの憲法草案にもあたる。これを加盟各国が批准すれば、EEC統合が軌道に乗るはずだ。

「曲がったキョウリ」は本音か?

批准とは、政府が結んだ条約でOKですと、議会が承認すること。あんまり重要な条約の場合、国民投票にかけることになっている国もある。

6月2日、「デンマーク・ショック」が世界を駆けめぐった。マーストリヒト条約を批准するための国民投票に、人口五百万人あまりのデンマーク国民が「ノー」と言ったのだ。反対50・7%、賛成49・3%、わずか1% (5万人たらず)の差が、EEC統合に待ったをかけるかたちになった。

いったい、デンマーク国民は何を心配したのだろうか?

になるので、高金利政策をとって、余分なお金を銀行に吸収してしまおうという作戦だ。

金利が高くなれば、マルクを買ってドイツの銀行に預けようという外国人も増えるから、マルク高(そのおおり、リラ・ポンド安)になる。イタリア、イギリスの政府の財布は空っぽだから、リラやポンドを買い支えようにも限度があるし、ドイツにお付き合ひして金利を上げたら、ますます不景気になってしまう。打つ手のないEEC各国は、ドイツにあまり金利を上げてくれるなど頼んでみたが、馬耳東風。かえって、経済政策に失敗したイギリスが悪い、と切り返したので、ドイツとイギリスの間がぎくしゃくし始めた。

デンマークは、ドイツと国境を接している。戦争での苦い経験もある。このまま統合が進むと、隣国ドイツに呑みこまれたと同じ結果になるのではないかと恐れた。デンマークは生活水準が高いので、統一すると税金を取られるばかりで、かえって生活水準が下がると税金を取ると不安もあった。そして何より、ブリュッセル(EECの本部がある)の役人が何でも勝手に決めてしまつてとへの反感があった。EECになったら、曲がったキョウリが市場に出荷できなくなる、というキャンペーンが人びとの心をとらえた。

フランスの国民投票は「賛成」

マーストリヒト条約は、加盟12か国の全部が批准しないと効力を持たないことになっている。こうなれば、デンマークの言い分を聞いて条約をつくり直すか、デンマーク抜きで11か国でやり直すか、どちらかしかない。いずれにしても大めは必至。そこでほかの国々は、時間を稼いで、デンマークの気が変わるのを待つことにした。さきわい、デンマーク以外の国々の批准は順調に進んでいる。6月19日に国民投票をしたアイルランドは賛成69%、9月20日投票のフランスは、賛成50・8%と僅差ながら、ぎりぎり批准に成功した。この二りの国々は、議会ですんなり批准をすませたが、間もなくすませる予定のところばかりだ。

「曲がったキョウリ」は本音か?

ところがもうひとつ、頭の痛い問題が持ちあがった。リラとポンドがすくつかた。EECは、通貨統合の準備として、欧州通貨制度(EMU)を作っている。これは、ムカデ競争のように、各国通貨が足並みをそろえようというもの。その仕組みが為替相場安定制度(EMR)である。マルク・フラン・ポンド・リラ……の交換レートを決めておき、そこから上下片側±25%の範囲内、相場の変動を収めることに決めたのだ。これでうまく行ったら、ムカデの下駄をECUに履かせる手筈になっていた。

ベルリンの壁が崩れて、予定が狂った

EECを作ろうと相談したのは、ベルストロイカの始まりと前のこと、東西ドイツが今世紀中に統一されるだろうなどと、だれも想像していなかったところである。西ドイツなど、西側諸国が先にひとつにまとまろうというのが、最初の計画だった。そこへ急に、ベルリンの壁が崩れた。ドイツはこの機会をのがすと、あつという間に東ドイツを吸収、統一を達成してしまった。残る東欧の国々も、東ドイツにあやかって、マルク経済圏に入れてもらおうとあせっている。冷戦の終結とはつまりユーゴは内戦になり、それとこれと、ヨーロッパ統合のシナリオが、とても複雑になってしまったのである。

マルクはかりがなせ強硬?

こうなつたのも、ドイツと、ほかのEEC諸国の経済力に、横綱と十両くらいの差があるからである。

南部に農村を抱えるイタリアや英国も苦むイギリスに比べ、ドイツの経済はもともと強靱な力がある。そこへもってきて、東ドイツを統合したため、金利をうんと高くする政策をとり始めた。旧東ドイツに道路や住宅を建設したり、失業対策をしたりで支出がかさみ、毎年巨額の財政赤字がかさむ。これをほっておくといふん

いよいよ1993年1月1日に、市場統合

けれど、経済の面に限って言えば、まもなく市場統合が実現する。マーストリヒト条約を結婚披露とすれば、まあ婚前行ぐくらいにあたると言えよう。

来年1月1日に、欧州単一市場が発足すると

- (1)旅券やビザなしで、EEC12か国とEEFTA(欧州自由貿易連合)7か国の国民は、自由に行き来できる。
- (2)関税がなくなり、それらの国のあいだでは輸出入の手続きや書類が不要になる。
- (3)ある国で取った資格は、他の国でも通用する。学生はどの国の大学でも自由に学位を取れる。
- (4)よその国の公共事業に入札したり、銀行の支店を開設したりすることも自由になる。

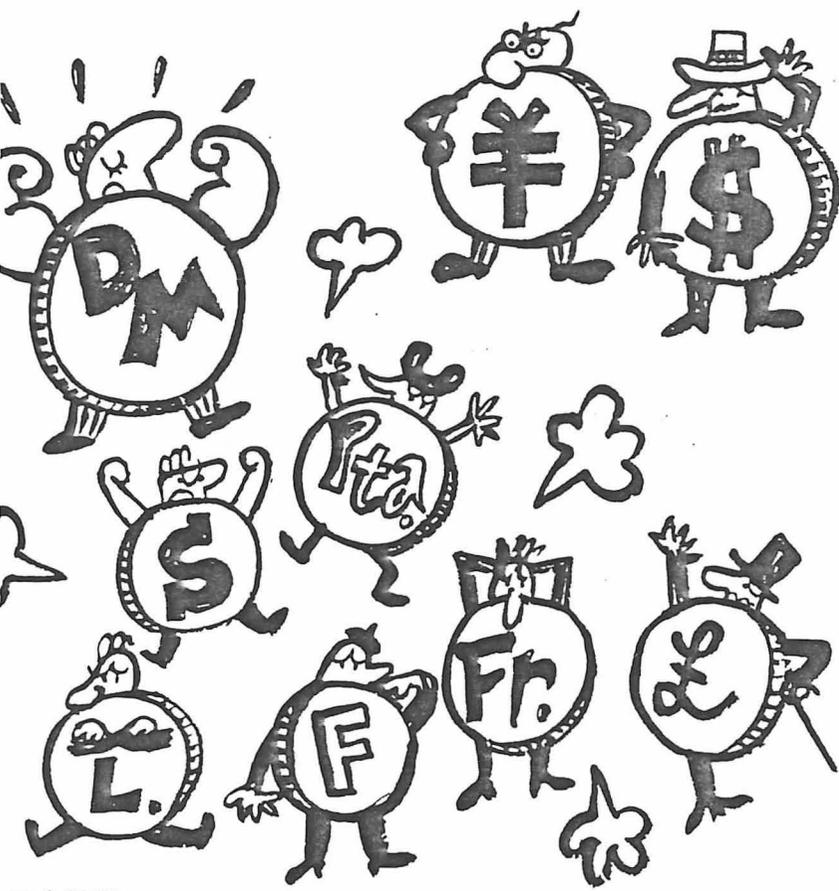
こうして人口3億6千万人、GNP合計6兆5千億ドルの、巨大経済圏が生まれる。小さな国ばかりで、アメリカ、旧ソ連、日本に水を聞けられてきたヨーロッパが、もう一度世界の主導権を取り戻せるかもしれない。

市場統合したヨーロッパはかなり手強い。そこからは閉め出されては大変だ、あわてたアメリカや日本は駆け込みに、ヨーロッパに子会社を沢山つくった。アメリカはEECに対抗して、カナダ、メキシコと一緒に、「北米自由貿易連合」を作った。

「EMU」論もあやふやか

EECのドローラ委員長が根回しに根回しを重ねてきた市場統合。ここまでのレールは敷かれてはいるが、その先、各国がEECに国家主権をよるこんで譲り渡すかどうかは、また別の話だ。今度のヨーロッパ通貨危機でマーストリヒト条約の土台がゆらぎ、EECの将来が先行き不透明になってきた。

そこで、通貨ですくつかたイギリス、イタリアはあと回しにして、ドイツとフランス、それにベルギー、オランダあたりでひと足先に国家統合を進めてしまおう……という密談があるらしいという噂がこのところ絶えない。ドイツもフランスも、根も葉もない噂だと否定するが、万が一乗り遅れたらどうしよう、EECのほかの国々には気がないのだ。統合に賛成なのは、どちらかといえば所得が中程度の国々なので、EECの中心となる国々にしてみれば、確かにお荷物を抱え込むかたちである。けれどもEECは、国家の壁を超え、目先の利害を超えた人類の夢なのだ。その理想に向かって、ヨーロッパが



イラスト/橋 伸生

橋爪大三郎(はしづめ だいさぶろう) 社会学者。「民主主義は最高の政治制度である。現代(現代)などの著書……ユーゴの戦火を見るにつけ、民族や文化の違いを乗り越えて、ヨーロッパがひとつにまとまることへの期待を感ずる。アジアの国々か手を結ぶのは、いつの日かのことや



「EC統合を地理的に見ると」



国際化時代に乗り遅れたら、つける薬は社会科学

日本人の、なくて七癖、あるいくせ

文・橋爪大三郎

まるまる三年と、もう少し前

89年の9月ころは、何をしましたか？

「ル・クール」の朝刊を買ったあなたは偉かった。社会科学院の連載を、このころから読んでるあなたはもっと偉い。きつといふことがあるでしょう。

思えばあれから、いろんなことがあった。ベルリンの壁が崩れ、ソ連が解体し、湾岸戦争も火を吹いた。自衛隊がカンボジアで国連のPKO活動に参加しているなんて、そのころいつたいたれが予想しただろう。竹下派を率いて日本の政治を動かした金丸さんも、いまは国会議員を辞めてただの人。時の流れを感じます。

●日本人なせ、社会科学に弱い？

日まぐるしく世界が動いていくのに、日本人は右往左往するばかり。これから世の中がどうなっていくのか、ちっとも読めない、というのも、たいていの日本人は、社会科学がとて苦手だからだ(もちろん毎号、社会科学院を読んでいるあなたは別です)。

どうしてなのかなあ、と私は考えてみた。そうしてどうやら、よくない癖のせいらしい、と気づいた。この際、洗いざらい指摘してみよう。

●やたら外国のことを気にする癖

コメの自由化、湾岸戦争の90億ドル、日米構造協議……自分で決めなければならぬことも、日本人はまず海外の反応を知りたがる。それからやっと、このへんでどうしようかと、外国にお伺いをたてる。

強いアメリカが、自由世界のチャンピオンとして世界を引っ張っていた間、日本はアメリカに甘えていればよかった。でも、冷戦が終り、湾岸戦争もすんだ後では、そうはいかない。

●原理原則をないがしつにする癖

さつさと自立しなければならぬのに、仕送りの途切れた大学生みたいに、いつまでもまごまごしているのが、いまの日本だ。

●本当のことを言わない癖

会も、コネがものをいう一流会社の就職も、根は同じである。こんな具合に、日本人の作る組織は「アテマエ」のほかに「ホンネ」があるので、とてもわかりにくい。

ひとの顔色を見ても、何をか決めていられるから、一本筋を通すことができない。どうしてもゆずれない自分の原理や原則が何なのか、はっきり主張できない。

例えば、コメ問題。アメリカと上りてさんさんもめたウルグアイ・ラウンドの農産交渉が決着した。自由貿易が守られて、うれしい限りだ。日本も、コメの輸入(関税)を認める番である。ところが、自民党のコメ議員が反対しているのだから、政府(農水省)はそれが決められない。自由化反対を唱えている野党に至っては、何をか言わんやである。

●昔のことを忘れる癖

もうひとつ困るのは、過去の過ちを忘れる癖。外国のことを気にするわりに、すんだことをきつと忘れてしまうのが日本人の特徴だ。例えばアジアの国々に、どんなひどいことをしたか。学校でちゃんと教えないから、若い人びとは何も知らない。ところが韓国でも中国でも、シンガポールでも、日本軍の仕方は歴史の時間になんと勉強する。被害を受けたほうが見えてくるのに、日本が忘れて知らん顔では、国際交流もあつたものではない。戦争中のあの従軍慰安婦問題も、戦後40数年後の謝罪だった。

●もうひとつ困るのは、過去の過ちを忘れる癖

ユダヤ人も、ローマ人も、中国人も、みんな歴史を大切にするとだ。考え方の違う、いろいろな民族が混じって住らすには、なんでもきちんと記録しておくことが大切なのだ。日本人はそうした記録がないので、歴史の大切さが肌身にしみしていない。

いまからでも遅くないから、現代史をおさらいすべきである。

もうひとつ、外国人をいららさせるのは、日本人がなかなか本音のことを言わないこと。

日本では伝統的に、いちいち口で説明するのは野暮だということになっている。わかる人には言わないでもわ

●他人と同じだと安心する癖

日本には日本人しか住んでいないことになっている。そのせいか、まわりと同じだと安心するのが日本人の悪い癖。隣りがテレビを買えば買い、近所がビデオを買えば負けずには買わねえ、気がつけば一億総中流だ。

東をかせば、ちよつと違うと仲間外れになるということもある。小学校ではいじめがはびこり、中学校では判で押したような受験知識の詰め込み、自分一人では何もできない、会社人間でできあがりだ。

●自分に自信が持てない癖

人間の〇〇ちゃんたら、もう△△ができるんですって、偉いわね。みたいなことを毎日聞かされ、学校に入れば「アナタノ偏差値ハ……テス」というテストの繰り返して育った日本人は、いつまでたっても自分に自信がない。

ひとに遅れをとるのは嫌なけれど、チャンスが与えられても、自分から「私にやらせてください」とは決して言わないのだ。外国人の目から見れば、まったく理解できない種類の人間である。

こういう人間が集まっているから、団体も自信がない。何かを決めるときでも、だれも責任を取りたくないので、そういう成り行きになるまで待っている。あるいはアメリカカとしめしあわせ、「外圧」がかかったので仕方がない、というふうには持っていく。

●うわただけで、ものごとを決める癖

こういう風土ではびこるのが、談話だ。だれも見えていなければ、その場にいる人間だけで、こそこそと決めてしまふ。当人たちに都合がよければ、ルールなんかどうでもよいのである。有権者さつちのけで首相を決める自民党の派閥も、株主不在であつたという間に終わる株主総

●社会科学は、日本を教えるか

ところで、こういう癖より何よりもっと始末におえないのは、自分たちにこういう困った癖のあることを、日本人がちよつとも気づいていないことである。

考えてみれば、無理もない。まわりを見回しても日本人ばかり。たまに見かける外国人は、ガイジンで、けつして自分たちの同類ではないことになっている。

こういう環境で、日本人の小さな殻にとじこもらないまごとももの見方を身につけようと思つたら、もう社会科学に強くなるしかない。

社会科学とは、自分の社会を「科学」すること。自分の社会のあり方を、そのまま納めてしまふのでなしに、ちよつとつき放して客観化し、その法則性を調べてみることである。そして、こう考えれば社会がもうちよつと住みやすくなる、という処方箋も作つたりする。

世界中のさまざまな社会について、それからもちろん日本社会について、これまでに大勢の社会科学者が、いろいろと調査し、議論し、研究をかきわけてきた。

本屋さんに行つて手を伸ばせば、その大事な結論を、いとも簡単に口にするところがある。そうやって、社会科学のものをわがものとすれば、日本人としての自分の人生を、二倍楽しむことができると、うけあいである。

では、どの本をよめばよいのか。社会科学院の連載が本になるというですね。お約束はできませんが、いまいろいろ研究中です。もしよっぽうお待ちください。

ところで突然ですが、社会科学院の連載は、今回でおしまいです。長いあいだ、ご愛読いただきありがとうございます。来月号から、少しスタイルを変えて、世の中を社会科学のものの見方で料理していく連載が始まります。お楽しみに。

※来月号からは、新連載「ニュースからマンボウ」が、始まりまふ。どうぞよろしく。



イラスト/橋爪大三郎

橋爪大三郎(はしづめ だいさぶろう) 社会学者。「冒険としての社会科学」(毎日新聞社)、「民主主義は最高の政治制度である」(現代書館)などの著。……変わらないようでも世の中は、少しずつ変わっていきます。連載を始めたころは、人びとの考え方も、世の中の仕事も、ずいぶん変わりました。これからはあなたが主役となって、世界を変えてください。